

令和5年度 第1回栃木市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和5年6月30日(金) 午前10時00分～午前11時00分

2. 場 所 栃木市役所 議会全員協議会室

3. 出席者

(構成員) 大川秀子 市長、青木千津子 教育長、後藤正人 教育長職務代理者、
福島鉄典 委員、西脇はるみ 委員、大塚裕子 委員、館野知美 委員、
林慶仁 委員

(事務局) 癸生川 総合政策部長、押山 総合政策課長、
金井 教育次長、佐藤 参事兼教育総務課長、
高野 地域振興部副部長、篠崎 主幹兼栃木公民館長
小林 スポーツ課長、他担当職員

4. 内 容

1 開 会

2 あいさつ

○大川市長

お忙しい中、第1回栃木市総合教育会議にご参集を賜りまして誠にありがとうございます。
ございます。

今朝の下野新聞に掲載された部屋小学校の移転問題については、委員の皆様にご心配をお掛けしております。移転については、賛成の方も反対の方もいるかと思いますが、行政が第一に考えるべきことは、こども達の安全を確保することだと思っております。

移転に係る手順に不足はあったかもしれませんが、こども達にとって、何が一番安全なのかを市民の皆様にご考えていただければと思います。

部屋小学校の移転については、委員の皆様にご迷惑をおかけしておりますが、慎重なご審議をお願いいたします。

今年は、栃木県が誕生して150年になります。本市においても県発祥の地として、6月10日に様々なイベントを開催し大きな賑わいを見せました。

また、本市の歴史を振り返り、郷土愛や栃木市民としての誇りを醸成するために小学生向けの記念冊子を作製する予定です。こども達には、本市の歴史を知ってもらい、誇りを持って成長してもらいたいと思っております。

さらに、この記念する年に、市が実施する様々な政策において、専門的な知見・経験から助言をいただく政策フェローを4名委嘱しました。教育に関する政策フェローに小出泰久氏、伝統文化に関する政策フェローに相川七瀬氏を委嘱しております。県誕生150年を機に、新しい未来へ向けてのスタートができればと思っております。

昨日、市民と行政との意見交換の場である「第1回ふれあいトーク」を開催しました。市内各所において8月8日まで、計12回開催いたしますのでご協力をお願いいたします。

本日は、公民館運営状況に関する点検・評価等と第2期栃木市スポーツマスタープランについて協議していただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

3 協議・調整事項

(1) 公民館運営状況に関する点検・評価等について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

委員の皆様からご質問、ご意見をお願いいたします。

○後藤委員

昨年度はコロナ禍であったが、各公民館については、出来る限り工夫し住民ニーズに答えるため、様々な講座を開催していた。厳しい状況の中、大変努力されていたと思う。

各公民館の総合評価について、運営や事業、利用者数などの目標の達成度合いを評価基準としていると思うが、前年度の達成率比較等の考察欄を見ると、利用者数が増加していると書かれているにもかかわらず、C評価になっているところもある。

評価については、従来通りの目標達成状況で判断してよいのかという疑問がある。コロナ禍など、想定できないようなことも起きる可能性があることから、総合的に判断し評価した方がよいと思う。

○事務局

委員ご指摘のとおり、目標の設定や評価の方法については、新しい視点や、従来とは異なる考え方を取り入れる必要があると考えている。今後については、委員からいただいたご意見や視点を踏まえ、評価を実施していきたい。

○福島委員

公民館事業について、今まではあまり知る機会がなかった。多くの講座が開催され、こんなにも参加者が多いことを今回初めて知った。大変ありがたく、素晴らしいと思う。引き続き実施していただきたい。

○市長

公民館講座等については、インターネットで予約できるのか。

○事務局

インターネットでの予約も可能だが、電話での予約が多い状況である。

○林委員

各公民館における Wi-Fi の整備状況はいかがか。

○事務局

現在は、栃木公民館と岩舟公民館のみ Wi-Fi 環境が整っている。他の公民館については、順次整備を進めていきたいと考えている。

○教育長

職員がいない地区公民館等について、利用者はどのような方法で公民館を利用しているのか。また、利用者数の目標値はどのように決めているのか。評価は誰がどのように実施しているのか。

○事務局

職員が常住していない公民館については、予約が入った際にシルバー人材センターへ鍵の開閉を委託しているところと、キーボックスを利用し、利用者に鍵の開閉をお願いしているところがある。

目標値については、過去の利用者数や講座数などを勘案し設定している。評価については、主に職員の主観で評価している。

○後藤委員

吹上公民館については、講座の受講要件を緩和したことにより利用者が増えたということであるが、どういうことか。

○事務局

基本的には公民館のある地区の住民を対象に講座を開催しているが、他の公民館と共同で講座を開催し、他地区の住民も参加できるようにしたことや、年齢や性別の参加条件を緩和するなどしたことから、公民館の利用者数が増えた。

○福島委員

部屋小学校の移転問題を検討するにあたって、隣接する部屋公民館も移転するかどうかを検討すべきと考える。部屋小学校の移転と一緒に考えるべきかどうか、市長の考えを伺いたい。

○市長

部屋公民館の移転を部屋小学校の移転と一緒に考えるべきかどうかは、住民の意向を勘案しながら決めていきたい。

○事務局

部屋公民館については、老朽化の問題もあるが、行政の窓口も行っている場所であることから、急に廃止することはないと思われる。

部屋公民館の移転については、部屋小学校の移転に関する方向性が決まった段階で、遅れることなく検討を進めていくと思われる。

(2) 第2期栃木市スポーツマスタープランについて

○事務局

※資料により説明

○大川市長

委員の皆様からご質問、ご意見をお願いいたします。

○後藤委員

計画策定にあたり実施した市民アンケートの結果については、市民の願いが結果数値に込められていると思う。結果を見ると、本市のスポーツ振興を図るために最も必要な施策として「市民が利用しやすい施設（26%）」、アスリートの育成指導に関するアンケートでは、「本市出身の全国で活躍するアスリートを知らない（68%）」という結果であった。課題をどう捉えるかが重要であるので、アンケート結果を市民の願いと受け止め、改善していただきたいと思う。

また、スポーツ資源、食資源、観光資源の連携は栃木市ならではの施策だと思うので、全面的に進めていただきたいと思う。

○事務局

本市については、1市5町の合併により同様の公共スポーツ施設を複数有することとなった。それぞれの施設を残して、地域の方々に利用していただきたいが、維持補修費や運営費など財源的な問題もあるので、民間企業の力を活用していく必要があると考えている。

住民のニーズを把握するとともに、どのように施設を残していくかなどを検討しながら、施設の充実を図っていきたい。

本市には、複数のオリンピック選手がいる。市がPRを行ってもなかなか情報が広がっていかないのので、どうしたら市民に伝わっていくのか、プロスポーツチーム等とも協力しながら検討し、努力していきたい。

プロスポーツチームとの連携については、どこの自治体も考えているが、本市は特に連携を強化しているので、連携事業の中で、市の特産品等をどう生かしていくかを検討していかなければならない。また、チームの知名度も高められるように、市も応援していく必要がある。

本市では、「食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画」を策定しているので、この計画を軸に事業を展開していきたい。

○林委員

近所の山には、山登りのために訪れている高齢者もいる。ウォーキングだけではなく山登りもスポーツになると思う。

山でケガをした場合などの緊急時の対応はどうなっているのか。無ければ緊急時の対応体制を整えていただきたい。

○事務局

標高が低い山については、ウォーキングやハイキングのコースになり得る可能性がある。低い山でも遭難などの危険があることは承知しているが、地域資源として活用していることもあり、案内看板を設置するなど、安全の確保については庁内で検討していく必要がある。

○西脇委員

藤岡渡良瀬運動公園ではウォーキングをしている方が沢山いる。また、渡良瀬遊水地にはカメラをもって野鳥を撮影にくる方も多い。一方で、公園内にはスケートボードができるパンプトラックが設置されているが、あまり利用されていないようである。

藤岡地域には様々な地域資源があるので、もっとPRしていただき、多くの人に訪れていただきたい。

○事務局

昨年、パンプトラック等を含めたサイクルパークについては約8千人に利用いただいている。県外の方も多く、今まで栃木市に来たことがなかった方も来ている。また、パンプトラックを利用に来た方が、藤岡渡良瀬公園にバスケットコートがあることを知って、その後バスケットコートを利用しているようである。このように少しずつ利用者の輪が広がってきている状況である。改善すべきこともあると思うので、それらに取り組みながら藤岡地域全体のPRを強化していきたい。

渡良瀬遊水地には通常はいない野鳥が飛んでくることがあり、そのようなときは全国からカメラマンが渡良瀬遊水地を訪れている。

藤岡地域には多くの可能性があるなので、それらを生かす政策を庁内で検討していきたい。

○教育長

藤岡地区の小中学校では、渡良瀬遊水地の歴史やそこで生息する生物について等、総合的な研究を行っている。

○教育長

「第2期栃木市スポーツマスタープラン」P50～P53に記載されている公共スポーツ施設について、これは「栃木市スポーツマスタープラン」策定（平成28年3月）後、施設の統廃合が進んだ結果を記載しているのか。

○事務局

市が現在保有する公共スポーツ施設をリストに掲載している。施設の統廃合に関する方針等については、「栃木市スポーツ施設ストック適正化計画」の中で定めており、これに基づき施設の統廃合を進めることになる。

4 その他

※事務局から次回の日程等について説明を行った。

5 閉会（11：00）